

# テサロニケ：日常を続けながら待ち望む

テサロニケ宛ての書簡の背景には、どのような問いがありましたか。

テサロニケ宛ての手紙は、圧力、悲しみ、キリストの再臨への疑問に直面する若い共同体に語りかけます。その希望は実践的です。信徒は互いを励まし、忠実に暮らし、責任をもって働き、配慮が必要な人々に心を向けるよう求められます。

## 中断された宣教

使徒言行録は、メシアの苦しみと復活についてパウロが聖書から論じる様子を描きます。応答する人々がいる一方、反対によってヤソンら信徒が訴えられます。会堂で過ごした三回の安息日は、必ずしも滞在全体の長さを示しません。手紙はパウロの働き、愛情、再訪への願いを振り返り、人間的な厚みを加えますが、日ごとの完全な年表は示していません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 17章1～10節・テサロニケの信徒への手紙一 2章7～12節・テサロニケの信徒への手紙一 2章17～20節

出典: acts, letters

## 悲しみに応える復活の希望

テサロニケの信徒への手紙一は、キリストの再臨前に亡くなった信徒への心配に答えます。パウロは教会の目をイエスの死と復活へ向け、互いに励ますよう促します。この箇所の目的は慰めと希望であり、日時の計算ではありません。その描写を他の終末についての記述とどう結び付けるかは、キリスト者の間でも異なります。案内は違いを説明し、特定の予測を福音そのものにはしてはいけません。

聖書の参照箇所: テサロニケの信徒への手紙一 4章13～18節・テサロニケの信徒への手紙一 5章1～11節

出典: letters

## 責任をもって待つ

この書簡は、待望を聖さ、相互の愛、実際の暮らしと結び付けます。テサロニケの信徒への手紙二は、動揺を退け、秩序を乱す怠惰を戒めます。対象は働こうとしない人であり、働けない人や求職中の人を辱めるために使ってははいけません。パウロ自身の執筆かどうかには議論があります。いずれの理解でも、本文

は憶測や隣人の放置ではなく、忍耐強い忠実さへ共同体を招きます。

聖書の参照箇所: テサロニケの信徒への手紙一 4章1～12節・テサロニケの信徒への手紙二 2章1～3節・テサロニケの信徒への手紙二 3章6～15節

出典: letters, brown

## 出典

- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>
- [brown] Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997), chapter 26, “Did Paul Write II Thessalonians?”.

---

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/thessalonica>